

# 平成 29 年度研究推進計画

海田町立海田南小学校

校長名 重森 栄理

## 1 研究主題

### 主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成

～資質・能力を育む「課題発見・解決学習」の授業づくりのあり方～

〈単元構成を工夫し、思考スキルを身に付けさせ、振り返りを活用して次の学びに生かす指導を通して〉

## 2 主題設定の理由

本校は、平成 28 年度より、広島県教育委員会「『学びの変革』パイロット校事業」の実践指定校を受け、本年度は 2 年次となる。

昨年度は、「主体的・協働的に学び、自分の考えを表現する児童の育成」を研究主題に、国語科、総合的な学習の時間について研究を進め、「課題発見・解決学習」の単元開発に取り組み、国語科 11 本、総合的な学習の時間 4 本を開発した。その際、本校児童の実態に即して、「主体性」「思考力・表現力」「自己理解」の三つの育成したい資質・能力を設定し、主体的に学ばせ、課題を解決するためのドリームプラン（単元構成案）、考え方を身に付けさせ、思考を深めるための思考ツール、自己の学びをメタ認知させるための学びのモニタリング（単元末における振り返り）に視点を当てた授業研究を進めた。また、年度の前半では単元における導入の工夫、後半では深い学びを達成するための思考の場の工夫を行ってきた。その結果、児童が「やってみたい」という意欲をもって学習に取り組み、進んで自分の考えを表現できるようになってきた。しかし、国語科においては、児童の意欲を更にかきたてるような言語活動の工夫、総合的な学習においては地域の学習材を活用した単元開発が十分でなかった。そのため、学習における課題を児童が自分事として本気で考え、考えを深めることが不十分であるという課題が見えてきた。

そこで、今年度は「主体的・協働的に学び、自分の考えを深める児童の育成」を研究主題に設定した。昨年度の研究成果から、学習材が児童にとって興味深く、自分事としてとらえることができるような単元では、児童の協働的な活動が有機的に機能し、考えを深めることができることが明らかになった。そのような「課題発見・解決」学習の単元では「主体性＝自ら進んで課題を見つけ、解決しようとする力」「思考力＝自分の考えをもち、学び合うことを通して考えを広げたり深めたりする力」「自己理解＝自分の成長に気付き、次の学びへつなげようとする力」を育むことができるであろう。

しかし、本校が児童に付けさせたい資質・能力を育むためには、教師が各教科・総合的な学習の時間の特性をふまえたうえで、魅力的な授業づくりをしていくことが不可欠である。そこで、副題を「単元構成を工夫し、思考スキルを身に付けさせ、振り返りを活用して次の学びに生かす指導を通して」とし、昨年度に引き続き、ドリームプラン、思考スキル、学びのモニタリングを用いて児童の資質・能力を育んでいくことを目指していく。

### 3 研究仮説

児童にとって必然性がありゴールが明確な「課題発見・解決学習」の単元を開発し、思考スキルを身に付けさせるとともに、児童が自らの学びや成長を振り返る場の工夫を行えば、主体的・協働的に学び、自分の考えを深めることができる児童が育成されるであろう。

### 4 研究内容

#### (1) 授業づくり

○児童が主体的・協働的に学ぼうとし、資質・能力を育む「課題発見・解決学習」単元の開発

ア 思考力・表現力の育成

・考える視点の明確化

「比較（比べる）」「分類（分ける）」「構造化（整理する）」「評価（まとめる）」

「多面的（見方を変える）」「関連付け（つなげる）」などの思考スキルの活用

・発問の工夫（本質的な問い）

教師：授業のねらいを達成し、児童の主体的な思考を促し、質を高める発問

児童：根拠を明確にした発言

・協働学習の有効的活用

ペア・グループ・ジグソー活動など

・ノート指導の充実

・教室掲示の活用

系統立てた話型の掲示，つながり発言

イ 主体性

・児童にとって必然性があり、やる気にさせる課題をもたせた単元の設定及び導入の工夫

・児童の学びの上での願いをかなえる「ドリームプラン」の作成

ウ 自己理解

・児童が自らの学びや成長を振り返る「学びのモニタリング」の設定

・「学びのモニタリング」の視点の明確化

#### (2) 学習環境づくり

ア 学習の基盤

・認め合い、支え合う学級づくり

・ユニバーサルデザインの授業づくり

イ 日常的な取組

・読書活動の充実

・推薦図書リストの活用，読書の奨励

・並行読書の推進

・学級文庫の充実

・学力調査の分析をもとにしたドリルタイムの計画的な実施

## 5 研究方法

### (1) 理論研修

### (2) 授業研究

○全教職員が年1回以上の研究授業を実施し、1人1単元以上の単元開発を行う。

授業実践を参観し、協議の柱に沿って授業分析を行うことで、研究主題に迫る授業づくりをする。

**協議の柱** 「深い学び」につながる教師の発問や支援のあり方は適切であったか。

また、授業づくりを通して、指導方法の工夫・改善を行う。授業研究のもち方については、次の通りとする。

#### ア 全体研究授業

- ・原則として**授業の6週間前までにドリームプランを作成**，学年部・教科ブロック・研究部・管理職に稟議を諮る。ドリームプランの検討後，**授業の4週間前までに指導案作成**をし，稟議を諮る。
- ・必要に応じて，事前研究のために模擬授業を行う。
- ・授業記録は学年部で，協議会の司会，記録，会場準備は教務部で行う。
- ・記録者は協議会終了後，授業記録及び協議会記録を整理する。
- ・授業者は単元終了後，成果と課題を整理する。

#### イ ブロック研究授業

- ・全体授業研究の授業者以外の教職員が年1回行う。
- ・初任者研修の師範授業等と兼ねることができる。
- ・参観者は校長または教頭，初任者，実践指定校担当教員，授業者所属の低・中・高学年ブロックとする。ただし，実践指定校担当教員は空き時間の場合のみ，低・中・高学年ブロックからは空き時間でない場合は前半または後半のみの参観とする。
- ・原則として授業の**4週間前までにドリームプランを作成**，学年部・教科ブロック・研究部・管理職に稟議を諮る。ドリームプランの検討後，**授業の2週間前までに指導案作成**をし，稟議を諮る。
- ・授業後，研究授業参観者と研究主任で協議会をもち，成果と課題を明らかにする。
- ・授業者は単元終了後，成果と課題を整理する。

## 6 検証計画

### (1) 研究授業の検証

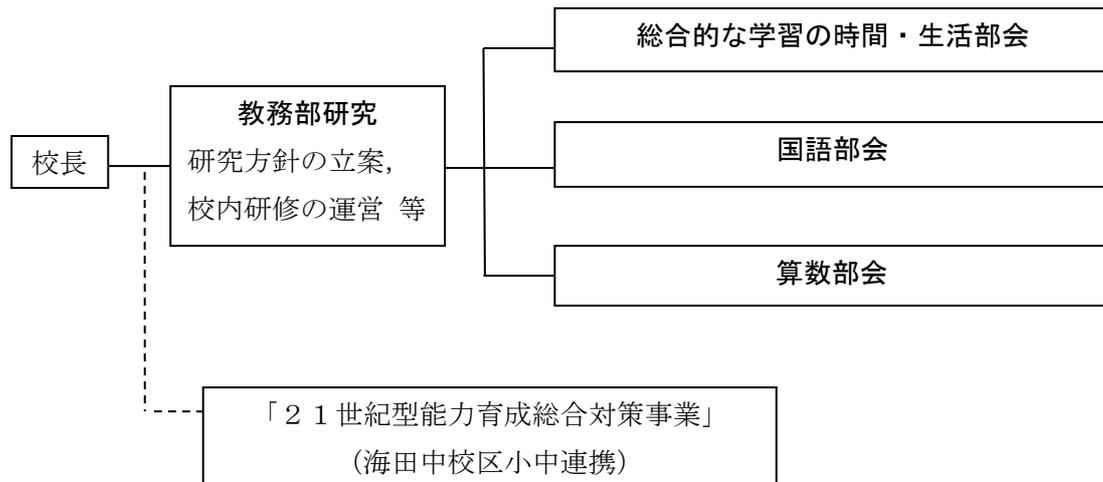
- ・授業の協議・検証
- ・成果物の検証

### (2) 各種学力調査の検証

### (3) 児童の意識調査の実施と分析

### (4) 教職員の意識調査の実施と分析

## 7 研究組織



## 8 校内研修計画（案）

月	日	曜	全体研修	示範授業兼ブロック研	講師
4	12	水	校内研修（今年度の取組について）		
5	10	水	校内研修（学びを深める発問の工夫及びノート指導について）		
	31	金	校内研修（6/7 授業研 模擬授業）		
6	15	木	授業研究①（6年 総合） 第1回意識調査実施	授業研究①（4年 津野教諭 音楽）	関西福祉大学 新川助教
	16	金			
	29	木			
7	25	火	全国学力・基礎基本の課題分析	授業研究②（4年 算数）	
	26	水	校内研修（10/17D P 検討）		
	27	木	1学期の研究結果検証		
8	7	月	海中21 10/17D P 検討※担当者のみ ※8/7の海中21担当者会を受けて10/17の指導案作成		
9	15	金	授業研究③（2年 国語）兼サテライト研修	授業研究③（4年 組 理科）	教育センター 長尾指導主事
	26	火			
	28	木		授業研究④（1年 生活）	
10	5	木		授業研究⑤（たんぽぽ学級 国語）	海田中 倉本教諭
	6	金		授業研究⑥（5年 算数）	

	17	火	海田中学校区公開研究会(1年 国語, 4年 総合, 5年 英語)		
	19	木		授業研究⑦(2年 生活)	
	20	金		授業研究⑧(6年 算数)	
	25	水	授業研究④(5年 算数)		西部教育 事務所
	26	木		授業研究⑨(たんぽぽ学級 自立)	海田中 倉本教諭
11	10	金		授業研究⑩(3年 国語)	
	16	木	授業研究⑤(5年 理科)兼理科推進兼海 中 21		
	17	金		授業研究⑪(6年 国語)	
	22	水	授業研究⑥(1年 国語)		西部教育 事務所
12	1	金		授業研究⑫(たんぽぽ学級 算数)	海田中 倉本教諭
	7	木		授業研究⑬(2年 算数)	
	中旬 25	月	第2回意識調査実施 2学期の研究結果検証		
1	19	金	授業研究⑦(3年 総合)		学びの変革
2	20	火	授業研究⑧(講師による示範授業 道 徳)		関西福祉大学 新川助教
3	7	水	本年度研究のまとめと次年度の方向付 け		

※ 初任者については、指導者参観授業をブロック研と兼ねる。

※ かがやき学級については、別途計画する。